

国立療養所邑久光明園配置図



10 こうみょう会館 1955年



1939年建築当初は、約千人収容の礼拝堂兼娯楽室として建立され、各宗団の御本尊や御神体を祀ることが出来るようになっていたことから「礼拝堂」と呼んでいました。その後、各宗団の御堂が別に建立されたことに伴い、「礼拝堂」から「こうみょう会館」の名称に変更されました。1956年に増改築されましたが、その後老朽化が進み1995年に更新築されました。現在はボランティアによる公演、文化祭、カラオケ大会等の各種のイベント会場として使用されています。

11 納骨堂 1942年10月



1942年京都西本願寺連合婦人会（総裁は貞明皇后陛下の妹）からの寄贈により建立。当時は戦争中で、物資不足のため「竹筋コンクリート造り」という珍しいものでした。形は六角堂式で屋根には五輪の塔を載せており1993年に原型のまま、少し大きく更新築されました。物故者は仏式・神式を問わず納骨されており、1996年の予防法廃止後は身内の方が遺骨を分骨して持って帰られることもあります。納骨者数は、前身の外島保養院時代を含めて3,200柱以上になります。

12 寺町



納骨堂を取り囲むように奥から、日蓮宗・真宗・真言宗・天理教・金光教の順に各御堂が並んでおり、他にキリスト教会堂が敷地の東側の宮の段地区にあります。当園は創価学会を含め、全部で7宗団ありますが、創価学会の御堂はありません。入所者の大半の方は各宗派に属しています。毎月1回法要が行われていて、通常は世話人の方が管理されています。